

おおさかタイムライン防災プロジェクト



タイムラインとは

大規模な災害から住民の命を守り、被害を最小化することを目的に防災関係機関が連携して災害時に発生する状況をあらかじめ想定し、「いつ」「誰が」「何をするか」に着目して防災行動とその実施主体を時系列に整理したもの。

プロジェクトの概要

大阪府では、タイムラインを以下の3つに分類し、先行取り組み（リーディングプロジェクト）を実施。これらの先行事例をモデルとして、洪水や土砂災害、高潮災害など様々なハザードを対象に、国や市町村と連携し大阪府全域にタイムラインの作成と活用を拡げていく、「おおさかタイムライン防災プロジェクト」を進めている。

引続き、活用・改善を促進⇒訓練未実施の2流域（下線）で訓練実施

広域タイムライン 5/5地域 <寝屋川流域、神崎川・安威川流域、南河内地域、大津川流域、大阪湾（泉州）高潮>
比較的大きな流域を対象として、行政機関に加え、ライフライン事業者、鉄道事業者など多くの防災機関の防災行動を記載したもの。国や府が主体となって関係する防災機関とともに作成。

引続き、作成、活用・改善を促進⇒作成中5市のTL完成、未着手の9市町で作成に着手

市町村タイムライン 29/43市町村 5市作成中
一つの市町村を対象として、市町村の各部署の防災行動を記載したもの。市町村の各部署が参画し、作成。

引続き、作成、活用・改善を促進⇒未作成地区における作成促進（令和5年度末までに全市町村で少なくとも1地区のTL作成を目標。令和4年度は土砂災害リスクのある全市町村で少なくとも1地区の作成を目指す）

コミュニティ（地域）タイムライン 13市町村、48地区

自治会などの小さな区域を対象として、住民や自主防災組織などが行う防災行動を記載したもの。市町村と地域住民がリスクコミュニケーションを図りながら作成。

課題と対応

タイムライン分類	課題	対応
広域	●訓練が実施されていない流域がある	●全てのタイムラインで訓練を実施 ●訓練と実際の水害対応の検証を実施し、必要に応じてタイムラインを改善
市町村	●9市町村が作成に未着手 ●作成済のタイムラインの活用、改善状況が未確認	●市町村への作成の働きかけ、支援 ●ふりかえり、改善状況を確認
コミュニティ	●地区数が多く作成が十分に進んでいない ●ノウハウが十分でない場合がある	●地区単位ハザードマップ作成済地域での作成促進 ●事例集の活用等により横展開 ●講師、ファシリテーターの派遣支援

これまでの取り組み

キックオフ

平成29年3月
おおさかタイムライン防災プロジェクトシンポジウム



神崎川流域

令和3年9月
策定・運用開始

リーディングプロジェクト

貝塚市旭地区 高潮タイムライン

平成29年3月
策定・運用開始



大阪湾沿岸 （泉州）高潮

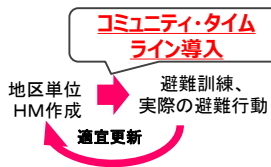
令和2年8月
策定・運用開始

※上図は、タイムライン完成状況
■ 「広域タイムライン」
● 「市町村タイムライン」

今後の展開

プロジェクト立ち上げ（H29.3）以降、広域タイムライン、市町村タイムラインの策定が進む一方、コミュニティタイムラインについては、対象となる地区が非常に多くなるため、令和3年度からモデル地区を選定して市町村と地域が行う作成を支援し、市町村職員のノウハウ取得による市町村管内での展開を図った。

令和4年度は引き続き**コミュニティタイムライン未作成の市町に対する支援**に加え、これまでに**地区単位ハザードマップのみ作成済の地域**に対し、コミュニティタイムライン作成の取組を拡げていく。



コミュニティタイムライン策定状況



安威川流域

令和元年9月
策定・運用開始

リーディングプロジェクト

寝屋川流域

平成30年8月
策定・運用開始



南河内地域 （石川流域外）

令和2年3月
策定・運用開始

リーディングプロジェクト

河南町 土砂災害タイムライン

平成30年6月
策定・運用開始

